

上越地区元気な地域づくり計画の成果事例

中山間地域等の振興

地域づくりの目標

高齢者・女性等が住みやすい環境づくりと生きがいづくりを行い、人口の流出を防ぐ

年平均転出人口32.4人(H17)→24.3人(H19)

代表的成果

8.1人の減少目標に対して、11.4人の減少

年平均転出人口32.4人(H17)→21人(H19)

計画に至る背景

新たな定住対策が必要

これまでの、若者を中心とした定住対策だけでなく、様々な経験や技術を持つ高齢者の転出を防ぐことで、定住人口を確保する。

このため、高齢者の持つ能力を生かしたコミュニティ活動、特に女性や若者等の地域文化の伝承活動を促進し、若者から高齢者までの幅広い年齢層がいきいきとくらす地域づくりを図ることとした。



新潟県上越市位置

取組活動の概要

コミュニティ活動の拠点となる施設を整備

平成17・18年度に、上越市が高齢者・若者等活動促進施設(1棟600㎡)を整備。

当施設は生きがい発揮の拠点施設として26団体、3個人が活用し、余暇活動や生涯学習、地域コミュニティの活性化に寄与している。

また、越後田舎体験推進協議会と連携した事業展開を図り、料理を楽しむ会を共催したり田舎体験事業で来訪する児童生徒の農作業体験などを受け入れている。



目標達成の要因

本施設において、越後田舎体験推進協議会等と連携し、食、農、工芸、自然観察、民泊などのインストラクターを養成・育成し、これらインストラクターの活動を側面的支援することにより、高齢者や女性の生きがい発掘が図られた。

また、インストラクターも主体的な活動が芽生え始めており、相乗効果により地域コミュニティの活性化が促進されたため。



門松づくり体験研修

今後の課題・展望

人口の増加につなげるためには、若者の生きがい発掘も必要であり、また、育成したインストラクター個々の所有する技術を継続的にどう生かし、生きがいに変えていくかが課題となる。

越後田舎体験推進協議会をはじめとするグリーンツーリズム推進団体等との連携を図りながら、伝統技術や技能を発揮できる場の一層の創出に努める必要がある。

地域づくりの目標

農業用排水施設（農道）の機能の向上
年間維持管理費の減少（目標123,000円）
 2,580,000円（H16）→123,000円（H19）

計画に至る背景

本地区は富山市の西端に位置し、昭和37～44年度に、団体営ほ場整備事業を実施し、その後営農組合を設立させ集団転作に取組、水稻を基幹とした大豆、麦の複合化が進展している。また、隣接地区は梨園、竹林が広がり、梨、筍が地域の特産物となっている。

さらなる営農基盤の拡大・営農活動の高度化のため、農道整備を行い、大型機械の通行改善と隣接地域からの農産物輸送についても便宜を図ることとした。



富山県富山市位置

取組活動の概要

農道の舗装

平成17年度、射水平野土地改良区が、農道舗装を1,143m実施した。

事業実施前



事業実施後



代表的成果

目標どおり年間維持管理費の減少を達成
 2,580,000円（H16）→123,000円（H19）

事業実施効果

農業経営の効率化を目指し事業を実施。砂利敷設等の維持管理が低減し、農業コストの低下が図られた。特産作物の運搬が容易になり、品質の向上が図られた。

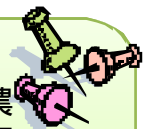
写真は梨園の状況。当地区周辺は梨の栽培が盛んであり、当地区の農道整備を行うことで出荷時の品質の向上に高い効果が期待できる。



今後の課題・展望

農道整備を行ったことで、除草時間の軽減や農業コストの低下が図られたことから、これらの時間や経費等を、より有効に経営に活かすことが課題である。

今後は、特産物のブランドイメージの構築など更なる農業経営の強化を図りたい。



石川県地区元気な地域づくり計画の成果事例

農村の振興

地域づくりの目標

地域活動の推進による都市近郊干拓農地の多面的な利活用

事業を契機とした地域活動数の増加

20回(H16)→21回(H19)

計画に至る背景

無集落干拓地における集落機能の確保

河北潟干拓地は、都市近郊にあるが無集落で、農家は背後集落に居住していることから、干拓地における集落機能の形成が課題となっている。

干拓地での共同活動による農地保全や環境向上を図るため、農業者と非農業者、地域住民などの参加・支援による地域の発想や意向を反映した個性的な地域づくりを河北潟を中心に図ることとした。



河北潟干拓地位置

取組活動の概要

住民参加の地域づくりの推進

平成17年度、石川県が「都市近郊農地多面的活用懇話会」を開き、継続的な地域活動を行う体制整備について検討を行い、農業農村整備事業により整備された基盤を発展的に利活用する、農業者、関係団体、ボランティア団体の環境美化活動や農業まつり等の地域活動に支援した。



清掃活動の様子
(河北潟クリーン作戦)

代表的成果

地域としての繋がりができ地域活動数も増加

結果 20回(H16)→22回(H19)

目標達成の要因

環境美化活動は、グリーンアース河北潟に継承され、現在も活動中であり、農業まつり等も着実に地域のお祭りとして定着しつつあり、地域住民の参加も多く、農業者と非農業者の交流を促進したことにより、地域としての繋がりが形成でき地域活動数を増加できたと考えている。

今後の課題・展望

活力ある農村集落を形成するためには、地域活動を維持していく必要があり、そのための推進体制の維持が課題である。



今立地区元気な地域づくり計画の成果事例

グリーン・ツーリズム、
都市農業の振興

地域づくりの目標

自然体験と伝統産業体験をつなげた、都市住民が
何度も訪れたいくなる地域づくり

入り込み客の増加

25,776人(H16)→30,931人(H19)

計画に 至る背景

本地区は、福井県越前市(旧今立町)にあり、地区の伝統産業である越前和紙や機織り・漆器などの体験ができる、本地区にしかない新たなグリーン・ツーリズムを模索してきた。特に平成15年度に試行した「田んぼのオーナー制度」をきっかけに、今立型エコ・グリーンツーリズムを推進するため平成16年には農家民宿に関する国の特区認可を受け、さらに『今立型エコ・グリーンツーリズム推進協議会(現口ハス越前)』を設立し、体制整備、民泊・体験受入の拡大など取組の強化を図ることとした。



福井県越前市位置

取組活動 の概要

新たな交流事業の展開

年間を通した誘客の仕組みを確立するため、今立型エコ・グリーンツーリズム推進協議会(現口ハス越前)において、各種団体や施設、農家等が連携してプログラムの開発や農家民宿開業など受入拡大に取り組み、それらの新たなプログラムを実施した。

写真は、「田舎暮らし体験」プログラムでの夏野菜の収穫の様子。



代表的成果

入り込み客の増加を達成

25,776人(H16)→36,718人(H19)

目標達成 の要因

今立型エコ・グリーンツーリズム推進協議会(現口ハス越前)の企画委員が中心となり新たなプログラムを開発し、受入農家をはじめ関係施設や団体と連携して着実に計画を実践してきた。

また農家民宿の開業が各種体験プログラムの核となり、県外からの誘客拡大につながった。

このことにより、滞在者を受入れる農家が農業や地元地域に対して自信と誇りをもち始めている。



今後の課題・展望

地域全体への波及は除々に進んでおり、地道な人材育成等活動や継続的な受入活動により着実に定着すると考えられる。

今後は、新たな滞在型交流プログラムの開発や広域連携による交流人口の拡大が望まれる。

